

学校便り

第344号
平成27年7月17日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木隆志

なでしこジャパンと科学技術

副校長 後藤 大輔

先日閉幕したサッカー女子ワールドカップカナダ大会。なでしこジャパンこと日本代表チームは準優勝という素晴らしい成績を収めました。惜しくも前回大会に続く連覇こそ逃しましたが、決勝でも最後まで勝利をあきらめないで戦う姿は感動を与えてくれました。

この素晴らしい活躍により、個々の選手にも注目が集まっています。キャプテンの宮間あや選手もその一人です。宮間選手はサッカーの技術的にも世界に認められている選手ですが、今注目が集まっているのはプレー以外での行動です。

前回のワールドカップドイツ大会決勝。なでしこジャパンは今回と同じアメリカと対戦しました。優勝が決まった瞬間、喜びに沸く選手たちの中、宮間選手はまずアメリカの選手に歩み寄り、お互いの健闘をたたえ合いました。また、2014年のアジアカップ決勝前日、控え選手中心の練習のサポートに回り、一人一人にメッセージ入りのペットボトル飲料を用意しました。その後チームは決勝戦にも勝利し、アジアカップ初優勝を飾りました。その優勝には控え選手にも気を配り、チームの一体感を生んだ宮間選手の行動も大きな要因となっているのでしょう。

7月6日には情報モラル講習会が実施されました。5年生の児童と全学年の保護者を対象に、スマートフォンや携帯電話、パソコン等、インターネットの危うさを理解し、今後の使い方やマナーについて考えるものです。そこでの講師のお話の中に印象に残る言葉がありました。

「科学技術は進歩しているが人間が進歩しているわけではない。」
という言葉です。情報モラル講習会では次のような事例が紹介されました。

家族4人で囲んだ食卓。一緒に食事をしていますが、一人は携帯電話をずっと片手に持ち、メールをしながら空いた片手でフォークを持ち食事をしています。コミュニケーションをとっているのはそこにいる相手ではありません。もう一人は食卓に背を向けてゲーム、もう一人も…といった様子です。その光景には一緒に食事をしている相手に気を配る気持ちが見られません。

科学技術は日々進歩し、便利になってきています。子供たちは、今の大人が生まれたときとは比較にならないほど便利で高機能の製品に囲まれています。しかし、それを使う人間が生まれたときから進歩しているわけではありません。便利な道具は正しい使い方をすれば、生活を快適で豊かにしてくれます。しかし使い方を誤れば危険な目に遭ったり、偏った考え方を身に付けてしまいます。

子供は人との関わりや経験を通していろいろなことを学んでいきます。「知る」という知識的な面や「できる」という技能的な面もちろんありますが、そこにいる相手のことを考える、みんなのことに気を配るといった、人との関わり方も学び、成長していきます。今回の宮間選手のエピソードに触れることから感じることもあるでしょう。

約6週間の夏休みが始まります。夏休みを通して多くの人と関わったり様々な体験をしたりして、夏休み明けにはいろいろな面で成長した子供たちに会えることを楽しみにしています。